

第 1.7.8 表 支持力に対する解析結果（J - J'）

対象建屋	基準地震動	地震時最大接地圧 (N/mm ²)
緊急時対策所	Ss-6NS (-, +)	2.8 [24.41]

※1 基準地震動の (+, +) は位相反転なし、(-, +) は水平反転、(+, -) は鉛直反転、(-, -) は水平反転かつ鉛直反転を示す。

※2 [] は発生時刻（秒）を示す。

※3 地震時最大接地圧は最大値を示す基準地震動、発生時刻における値を記載。

第1.7.15表 すべり安全率一覧表（J-J'）

すべり面 番号	すべり面形状	基準地震動	すべり安全率
1		Ss-1(-, +)	<p>13.5</p> <p>[14.83]</p> <p>(8.0)</p>

凡例 ——— すべり面 ○ すべり安全率の最小値

※1 基準地震動の (+, +) は位相反転なし、(-, +) は水平反転、(+, -) は鉛直反転、(-, -) は水平反転かつ鉛直反転を示す。

※2 すべり安全率の [] 内は発生時刻、() 内は、地盤物性のばらつきを考慮したすべり安全率を示す。

※3 すべり安全率は最小値を示す基準地震動、発生時刻における値を記載。

第1.7.22表 緊急時対策所の相対変位と傾斜

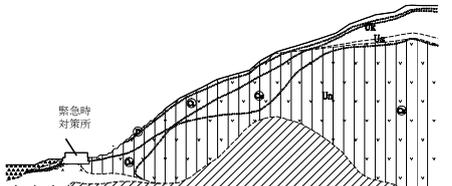
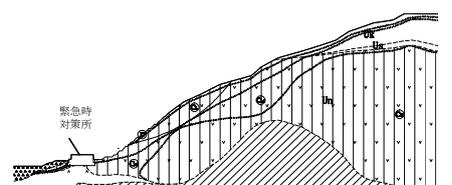
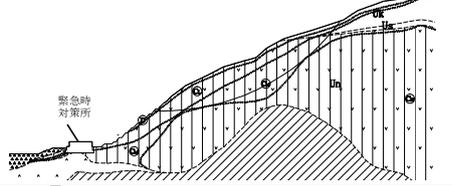
(J - J')

対象建屋	基準地震動	最大相対変位量 $ \delta A_y - \delta B_y $	最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$
緊急時対策所	Ss-7(-, +)	0.14cm (T=7.69秒)	1/21,400 (L=29.95m)

※1 基準地震動の (+, +) は位相反転なし、(-, +) は水平反転、
(+, -) は鉛直反転、(-, -) は水平反転かつ鉛直反転を示す。

※2 最大相対変位量、最大傾斜は最大値を示す基準地震動、発生時刻における
値を記載。

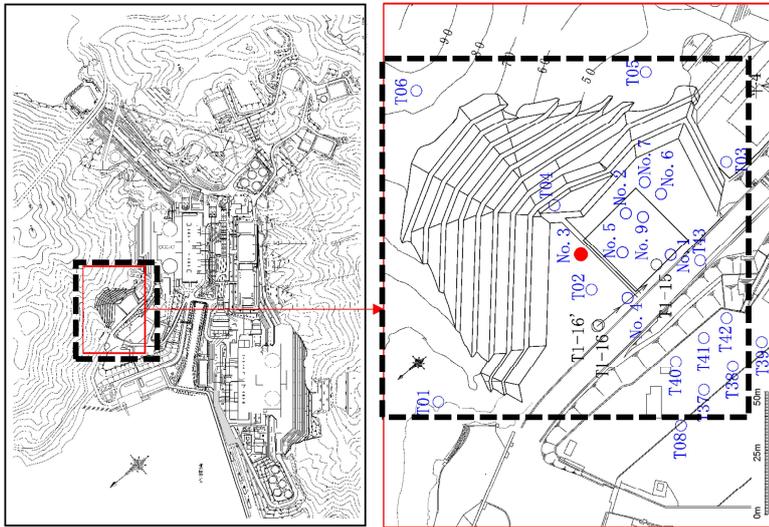
第1.7.26表 すべり安全率一覧表（J-J'）

すべり面 番号	すべり面形状	基準地震動	すべり安全率
1		Ss-1(+, +)	$\textcircled{1.7}$ [27.11] (1.5)
2		Ss-1(-, +)	3.9 [34.31]
3		Ss-1(-, -)	5.5 [12.93]

凡例 すべり面 すべり安全率の最小値

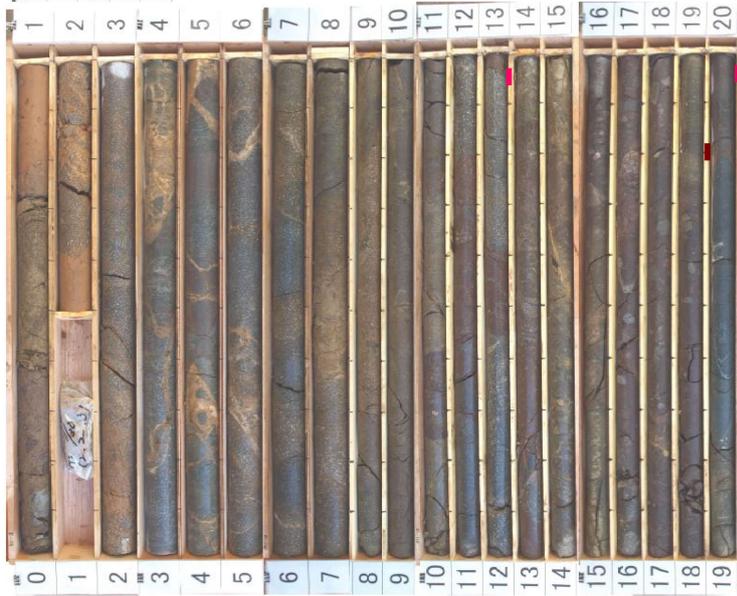
※1 基準地震動の(+, +)は位相反転なし、(-, +)は水平反転、(+, -)は鉛直反転、(-, -)は水平反転かつ鉛直反転を示す。
 ※2 すべり安全率の〔〕内は発生時刻、()内は、地盤物性のばらつきを考慮したすべり安全率を示す。
 ※3 すべり安全率は最小値を示す基準地震動、発生時刻における値を記載。

【ボーリング調査位置】

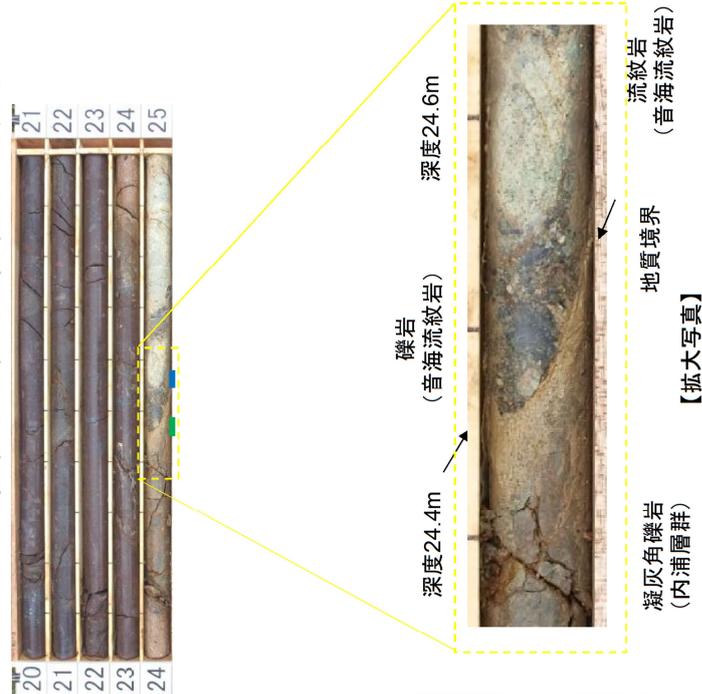


【No.3孔諸元】

孔口標高: E.L.33.00m 掘進角度: 90° 掘進長: 25.00m



- 安山岩 (内浦層群)と凝灰角礫岩 (内浦層群)の地質境界
- 凝灰角礫岩 (内浦層群)と安山岩 (内浦層群)の地質境界
- 凝灰角礫岩 (内浦層群)と礫岩 (音海流紋岩)の地質境界
- 礫岩 (音海流紋岩)と流紋岩 (音海流紋岩)の地質境界

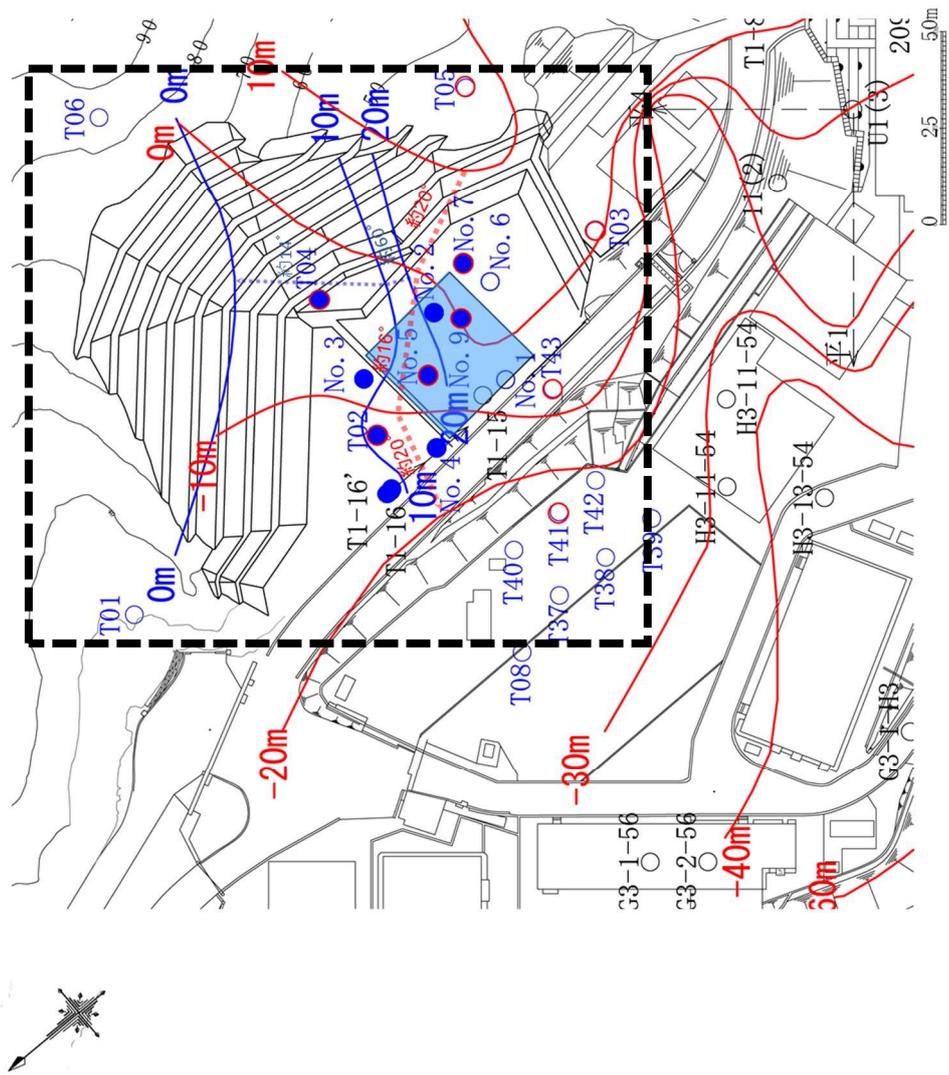


【拡大写真】

・ No. 3孔では、基盤岩は内浦層群の安山岩・凝灰角礫岩と音海流紋岩の流紋岩からなり、全長にわたり岩塊全体に風化の影響が認められる。
 ・ コア観察及び必要に応じてCT画像解析を行った結果、破砕部は認められない。なお、凝灰角礫岩 (内浦層群) と礫岩 (音海流紋岩) の地質境界について、詳細観察を行い、不整合面であることを確認した。

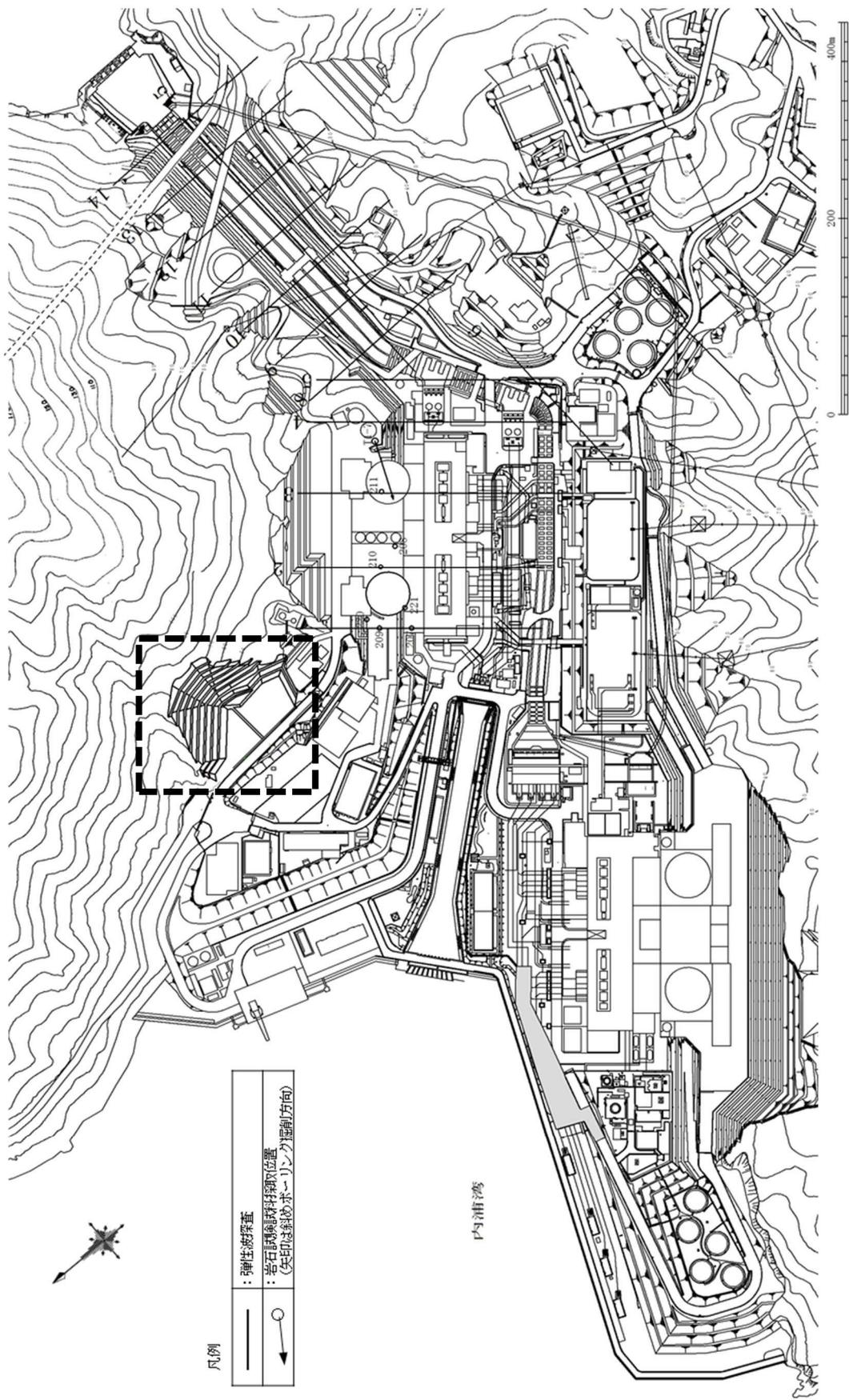
第 1.5.59 図(1) 音海流紋岩と内浦層群の境界部のボーリング調査結果 (No.3孔)

- 内浦層群と音海流紋岩の地質境界を確認したボーリング孔
- 内浦層群と音海流紋岩、音海流紋岩と大浦層の地質境界を確認したボーリング孔
- 音海流紋岩と大浦層の地質境界を確認したボーリング孔

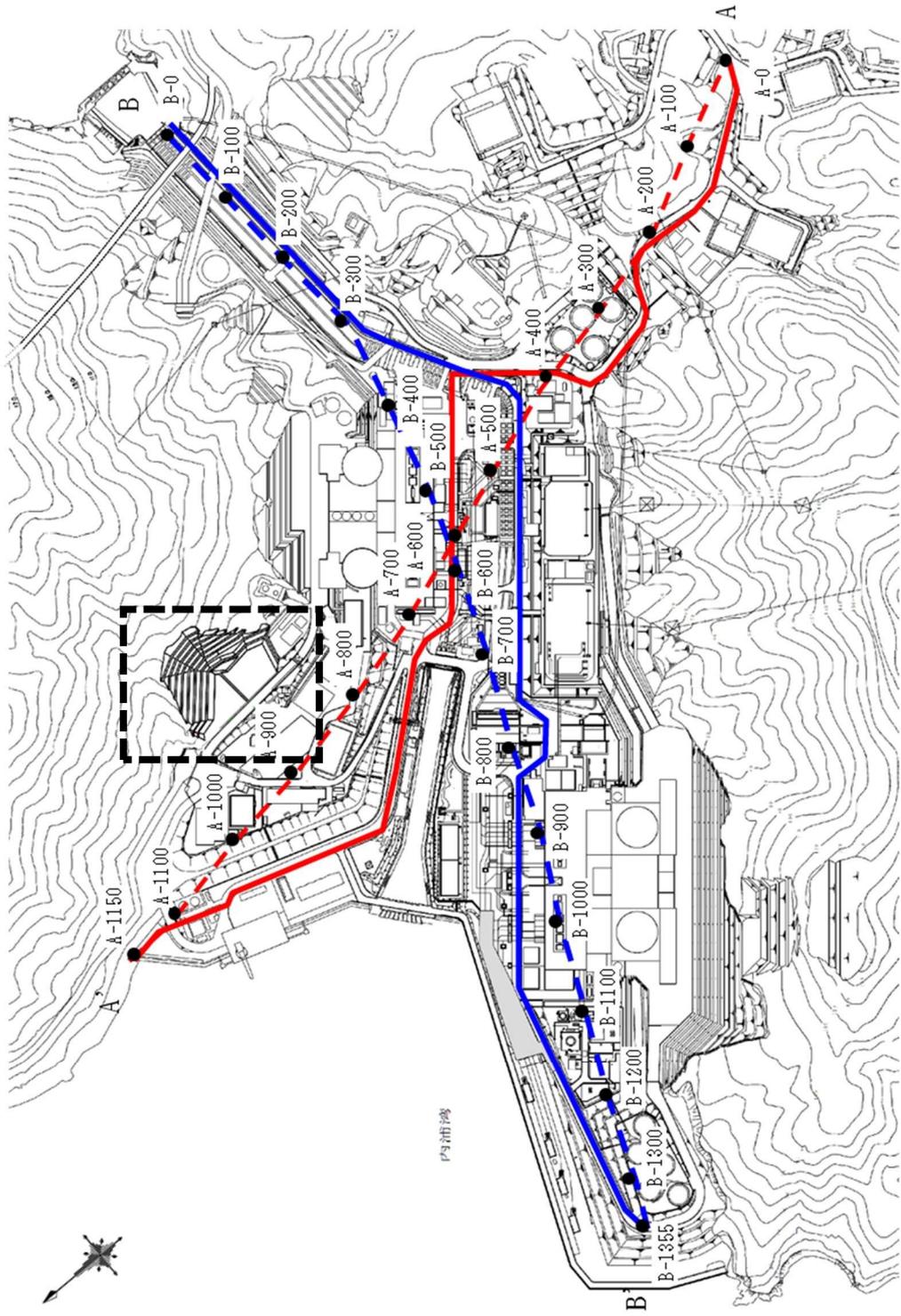


・大浦層と音海流紋岩の地質境界面には、急斜面が直線的に連続するような断面を示唆する特徴は認められない。
 ・内浦層群と音海流紋岩の地質境界の分布図を作成し、下位の地質境界と大浦層の地質境界は北東方向に向かって約14~60°で傾斜しているが、下位の大浦層と音海流紋岩との地質境界は北西方向に向かって約16~20°で傾斜しており、これらの形状は全く異なっている。

第 1.5.61 図 内浦層群と音海流紋岩、音海流紋岩と大浦層との地質境界の分布状況



第 1.6.1 図 地盤調査位置図

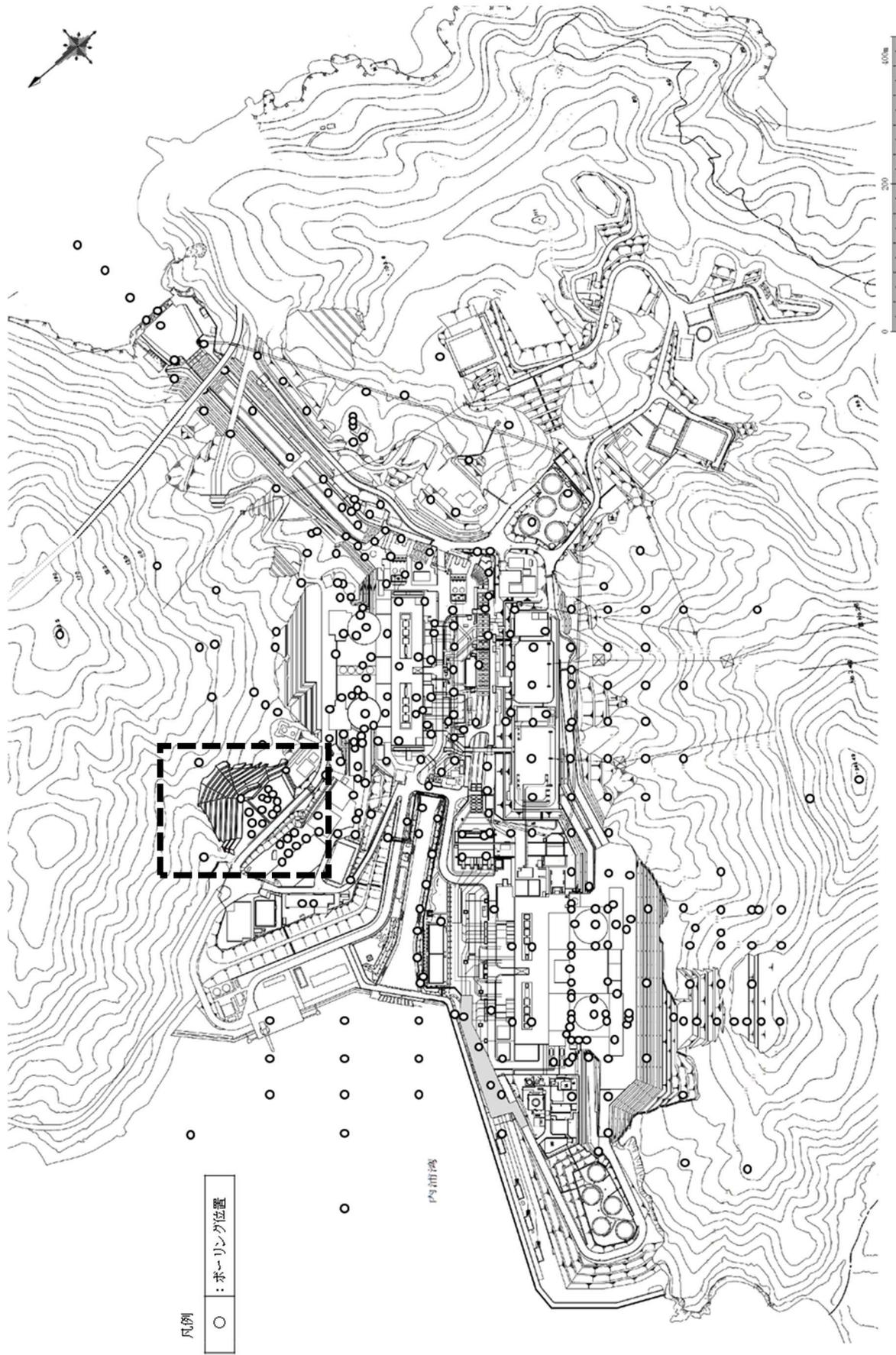


図中の数値は始点からの距離 (m)

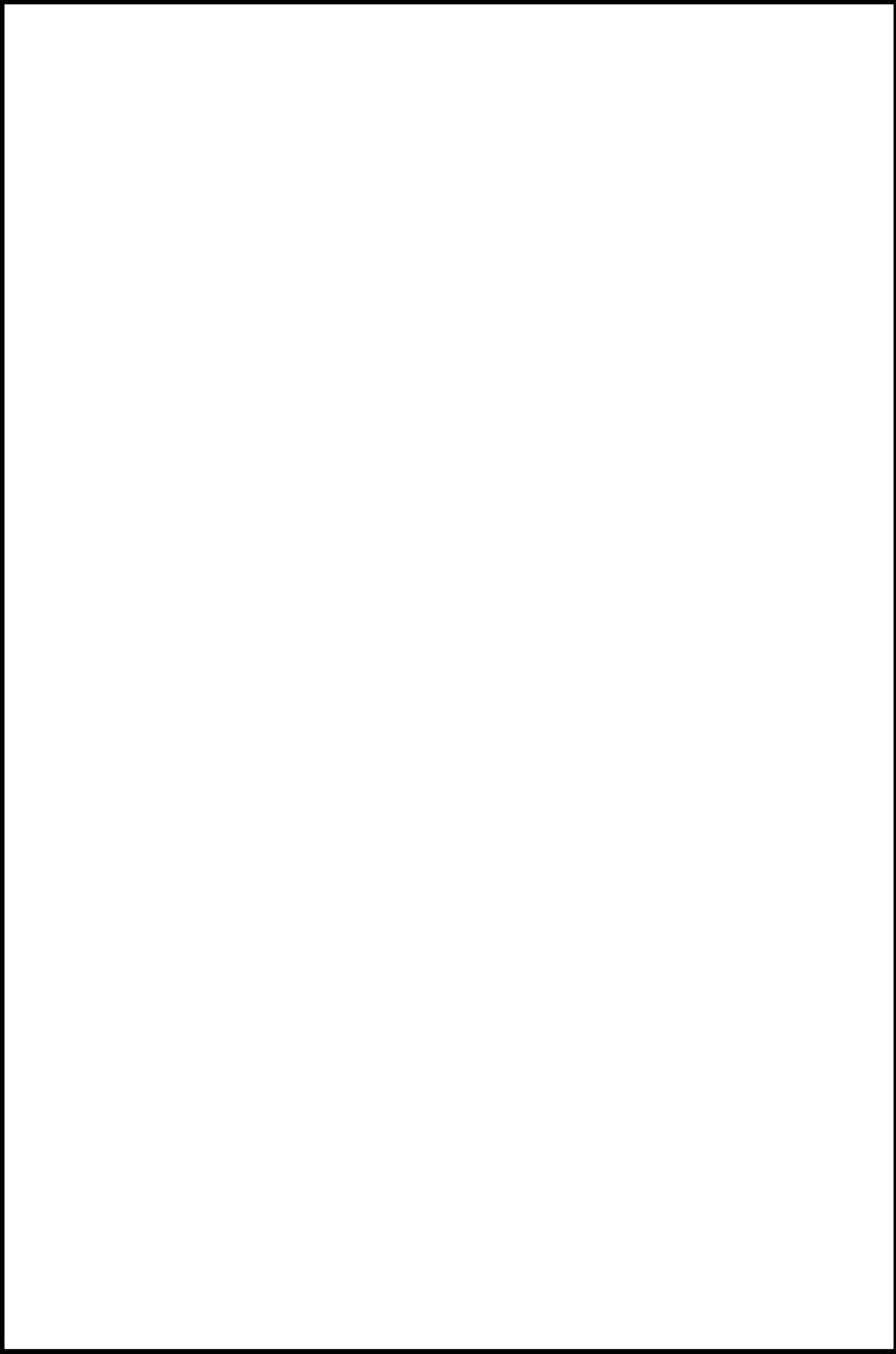
測線	A測線	B測線
調査測線長 (m)	1,420	1,490
解析断面長 (m)	1,150	1,355

- 調査測線
- - 解析断面

第 1.6.2 図 反射法地震探査位置図

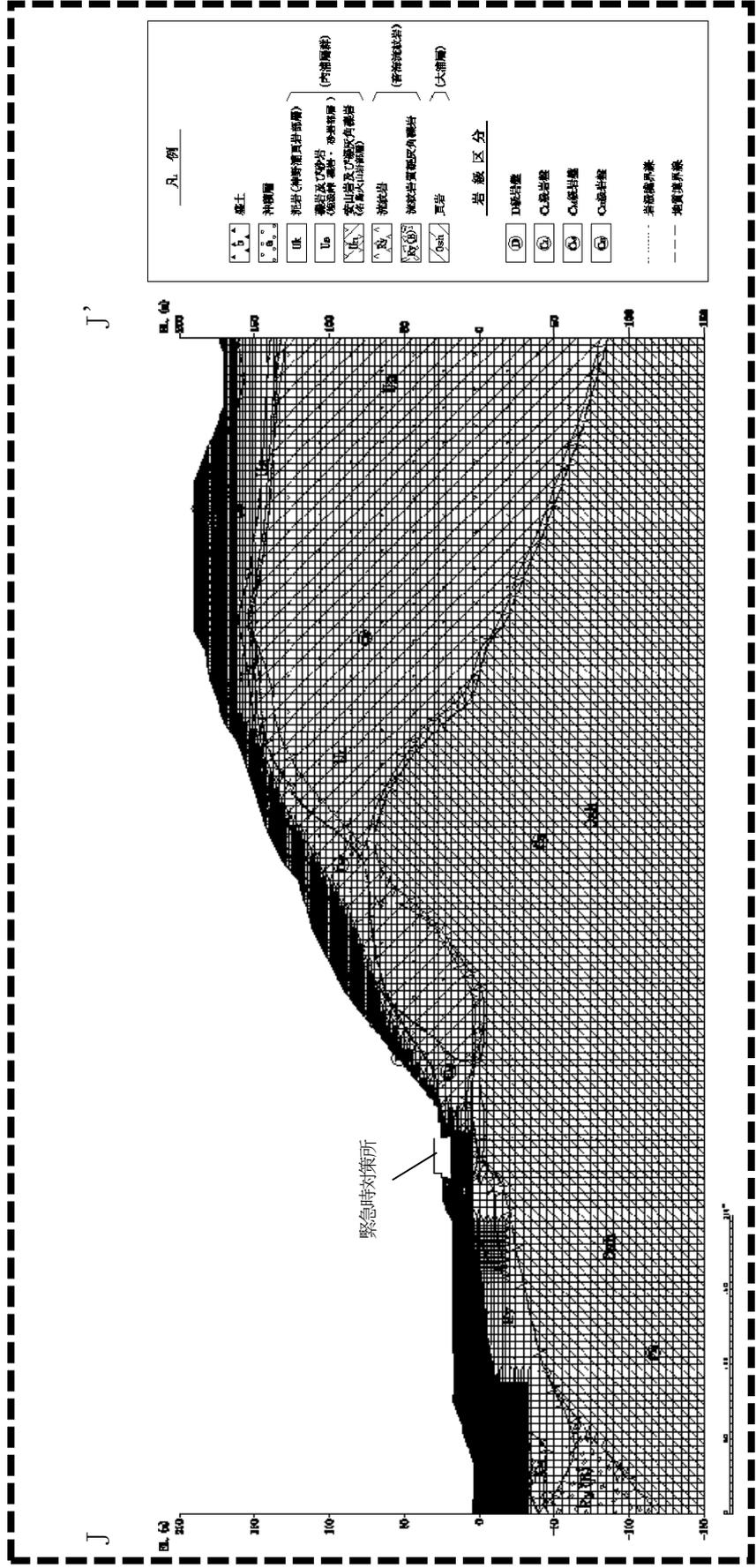


第 1.6.3 図 ボーリング調査位置図

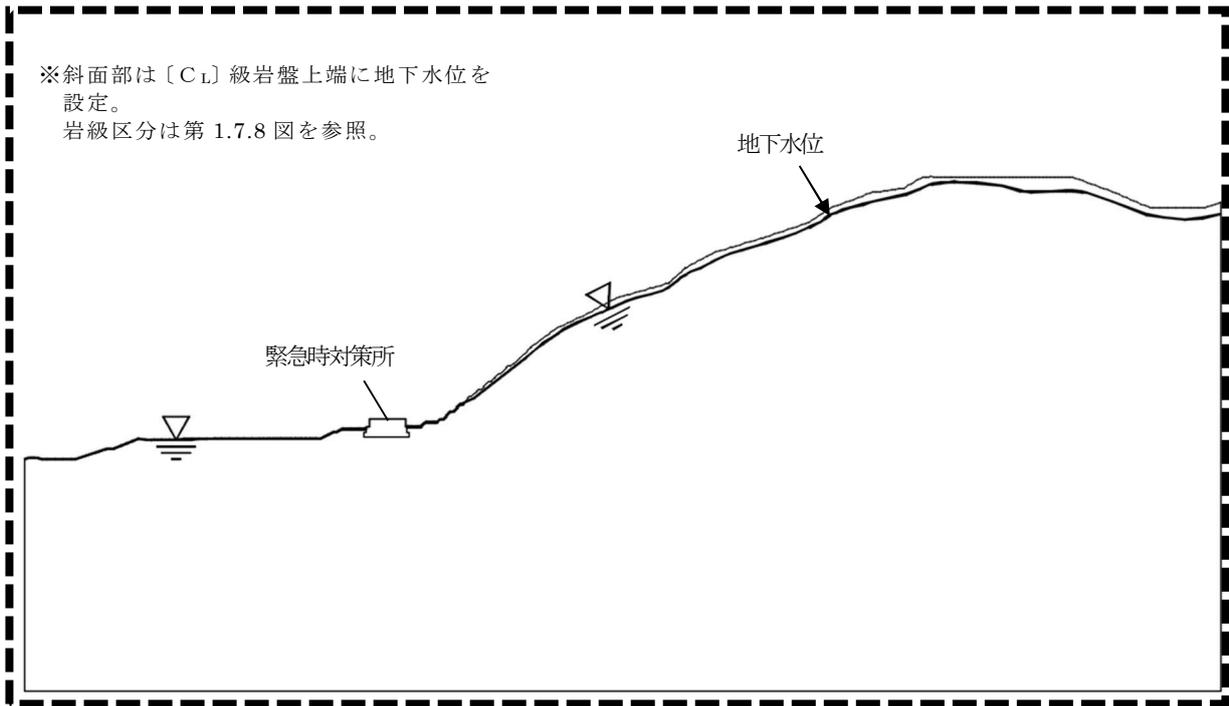


第 1.7.1 図 耐震重要施設及び常設重大事故等対処施設の配置並びに解析断面位置図

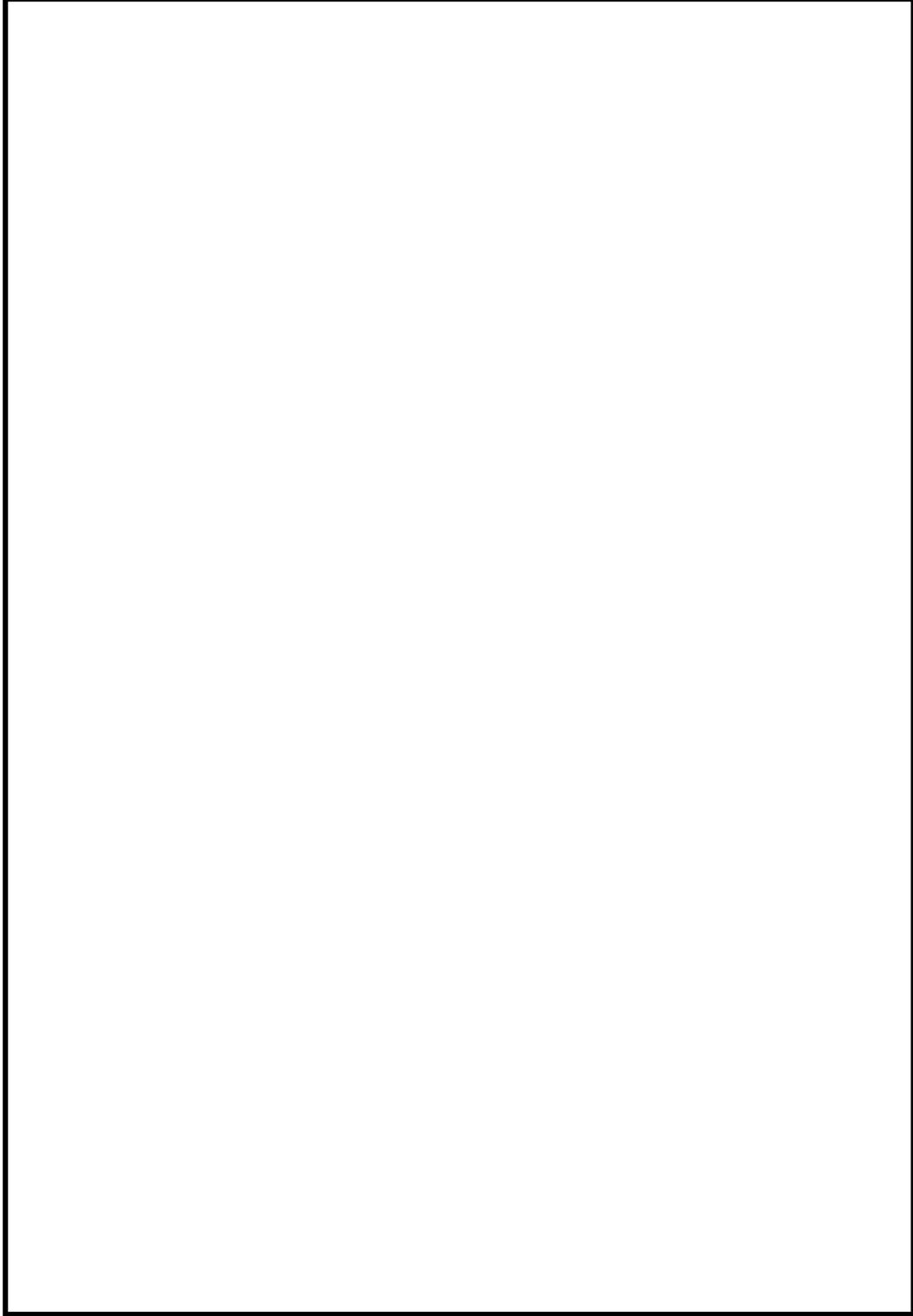
枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。



第 1.7.8 图 解析用要素分割图 (J-J')



第1.7.19図 解析用地下水位（J-J'）



第 1.7.20 図 評価対象斜面及び解析断面位置図

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。



第 1.7.10 表 支持力に対する解析結果（J-J'）

対象建屋	基準地震動	地震時最大接地圧 (N/mm ²)
緊急時対策所	Ss-6NS (-, +)	2.8 [24.41]

- ※1 基準地震動の (+, +) は位相反転なし、(-, +) は水平反転、(+, -) は鉛直反転、(-, -) は水平反転かつ鉛直反転を示す。
- ※2 [] は発生時刻 (秒) を示す。
- ※3 地震時最大接地圧は最大値を示す基準地震動、発生時刻における値を記載。

第1.7.19表 すべり安全率一覧表（J-J'）

すべり面 番号	すべり面形状	基準地震動	すべり安全率
1		Ss-1(-, +)	<p>13.5</p> <p>[14.83]</p> <p>(8.0)</p>

凡例 ——— すべり面 ○ すべり安全率の最小値

※1 基準地震動の(+, +)は位相反転なし、(-, +)は水平反転、(+, -)は鉛直反転、(-, -)は水平反転かつ鉛直反転を示す。

※2 すべり安全率の〔〕内は発生時刻、()内は、地盤物性のばらつきを考慮したすべり安全率を示す。

※3 すべり安全率は最小値を示す基準地震動、発生時刻における値を記載。

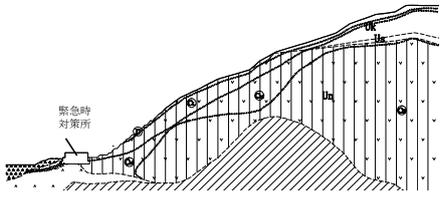
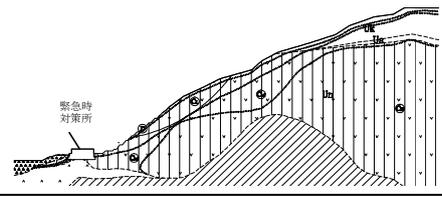
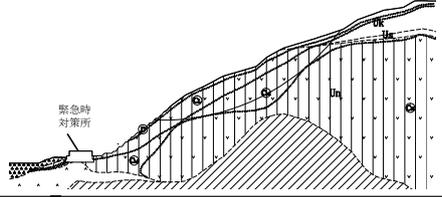
第1.7.28表 緊急時対策所の相対変位と傾斜（J - J'）

対象建屋	基準地震動	最大相対変位量 $ \delta A_y - \delta B_y $	最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$
緊急時対策所	Ss-7(-, +)	0.14cm (T=7.69秒)	1/21,400 (L=29.95m)

※1 基準地震動の（+, +）は位相反転なし、（-, +）は水平反転、
（+, -）は鉛直反転、（-, -）は水平反転かつ鉛直反転を示す。

※2 最大相対変位量、最大傾斜は最大値を示す基準地震動、発生時刻における
値を記載。

第1.7.33表 すべり安全率一覧表 (J - J')

すべり面 番号	すべり面形状	基準地震動	すべり安全率
1		Ss-1(+, +)	$\textcircled{1.7}$ [27.11] (1.5)
2		Ss-1(-, +)	3.9 [34.31]
3		Ss-1(-, -)	5.5 [12.93]

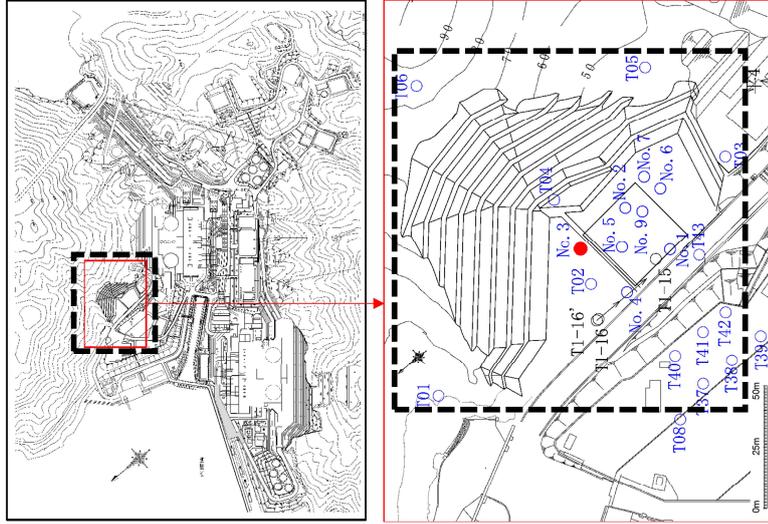
凡例 ——— すべり面 ○ すべり安全率の最小値

※1 基準地震動の (+, +) は位相反転なし、(-, +) は水平反転、(+, -) は鉛直反転、(-, -) は水平反転かつ鉛直反転を示す

※2 すべり安全率の [] 内は発生時刻、() 内は、地盤物性のばらつきを考慮したすべり安全率を示す。

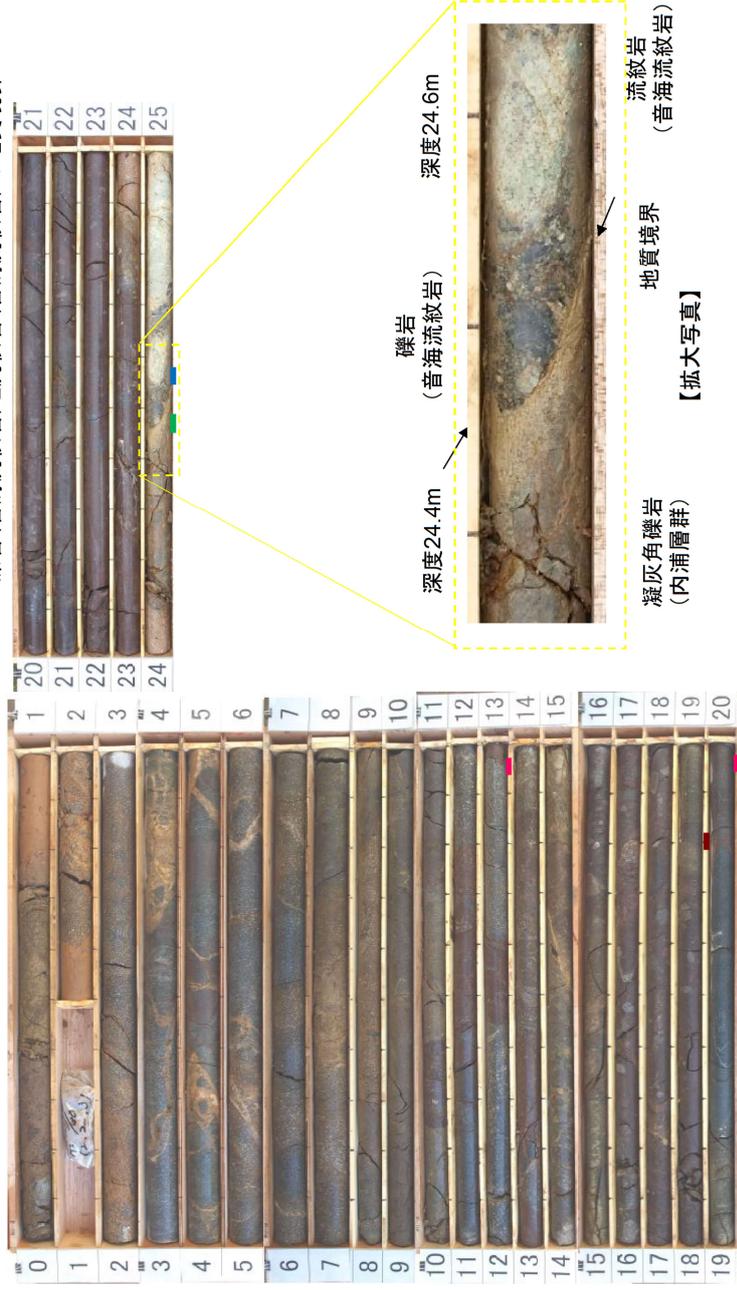
※3 すべり安全率は最小値を示す基準地震動、発生時刻における値を記載。

【ボーリング調査位置】



【No.3孔諸元】

孔口標高: E.L.33.00m 掘進角度: 90° 掘進長: 25.00m

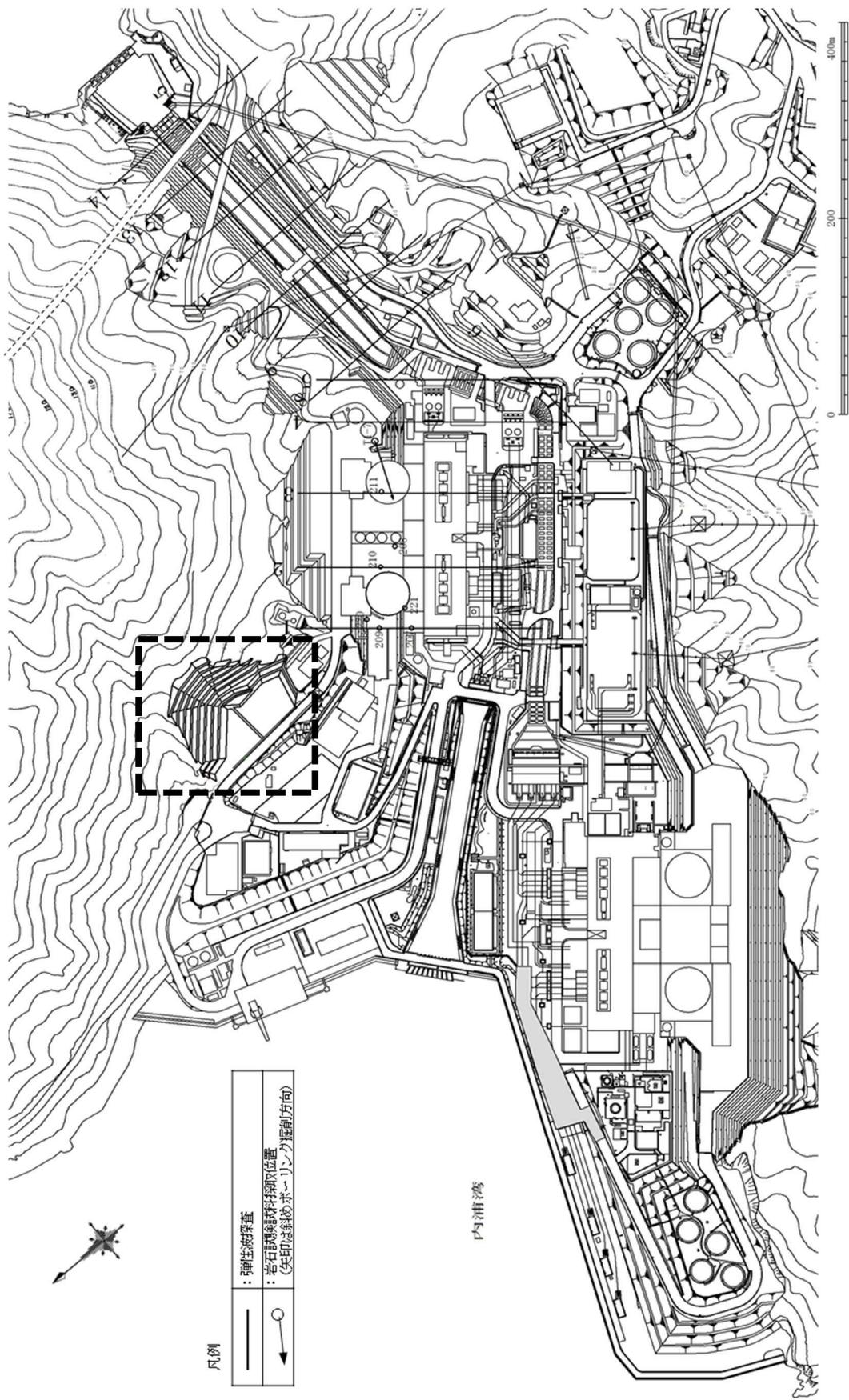


- 安山岩 (内浦層群) と凝灰角礫岩 (内浦層群) の地質境界
- 凝灰角礫岩 (内浦層群) と安山岩 (内浦層群) の地質境界
- 凝灰角礫岩 (内浦層群) と流紋岩 (音海流紋岩) の地質境界
- 流紋岩 (音海流紋岩) と流紋岩 (音海流紋岩) の地質境界

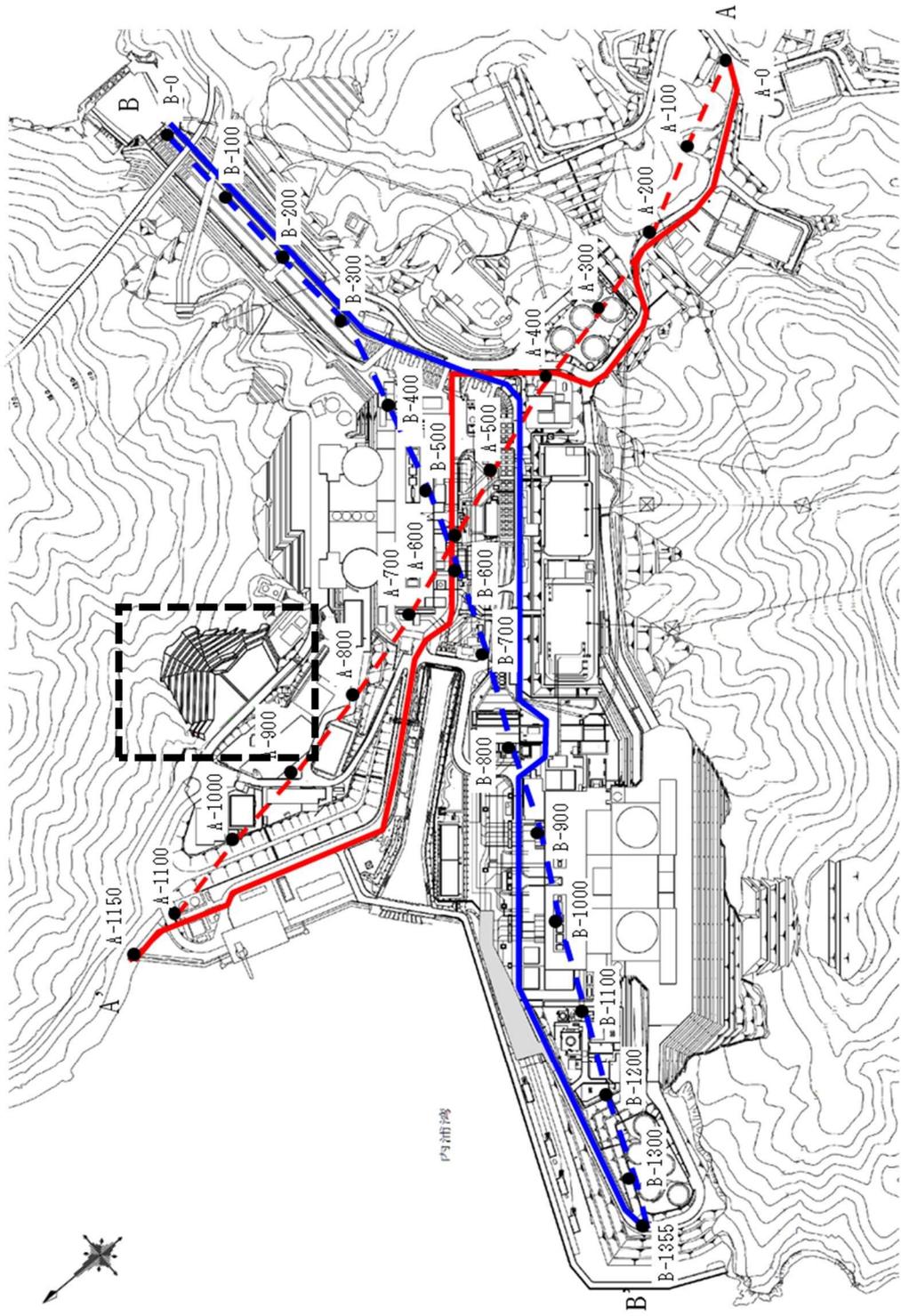
・ No. 3孔では、基盤岩は内浦層群の安山岩・凝灰角礫岩と音海流紋岩の流紋岩からなり、全長にわたり岩塊全体に風化の影響が認められる。

・ コア観察及び必要に応じてCT画像解析を行った結果、破砕部は認められない。なお、凝灰角礫岩 (内浦層群) と流紋岩 (音海流紋岩) の地質境界について、詳細観察を行い、不整合面であることを確認した。

第 1.5.59 図(1) 音海流紋岩と内浦層群の境界部のボーリング調査結果 (No.3 孔)



第 1.6.1 図 地盤調査位置図

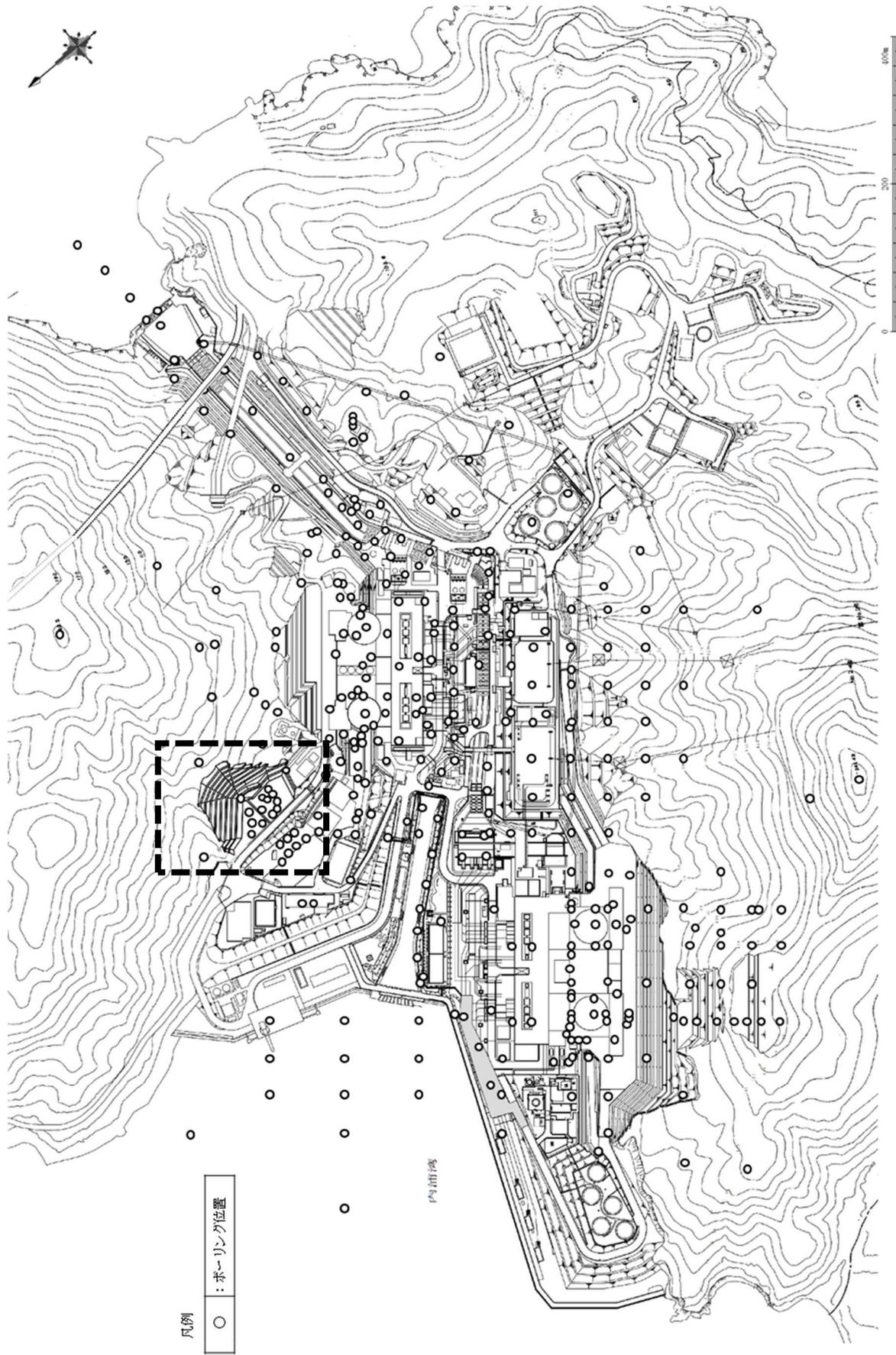


図中の数値は始点からの距離 (m)

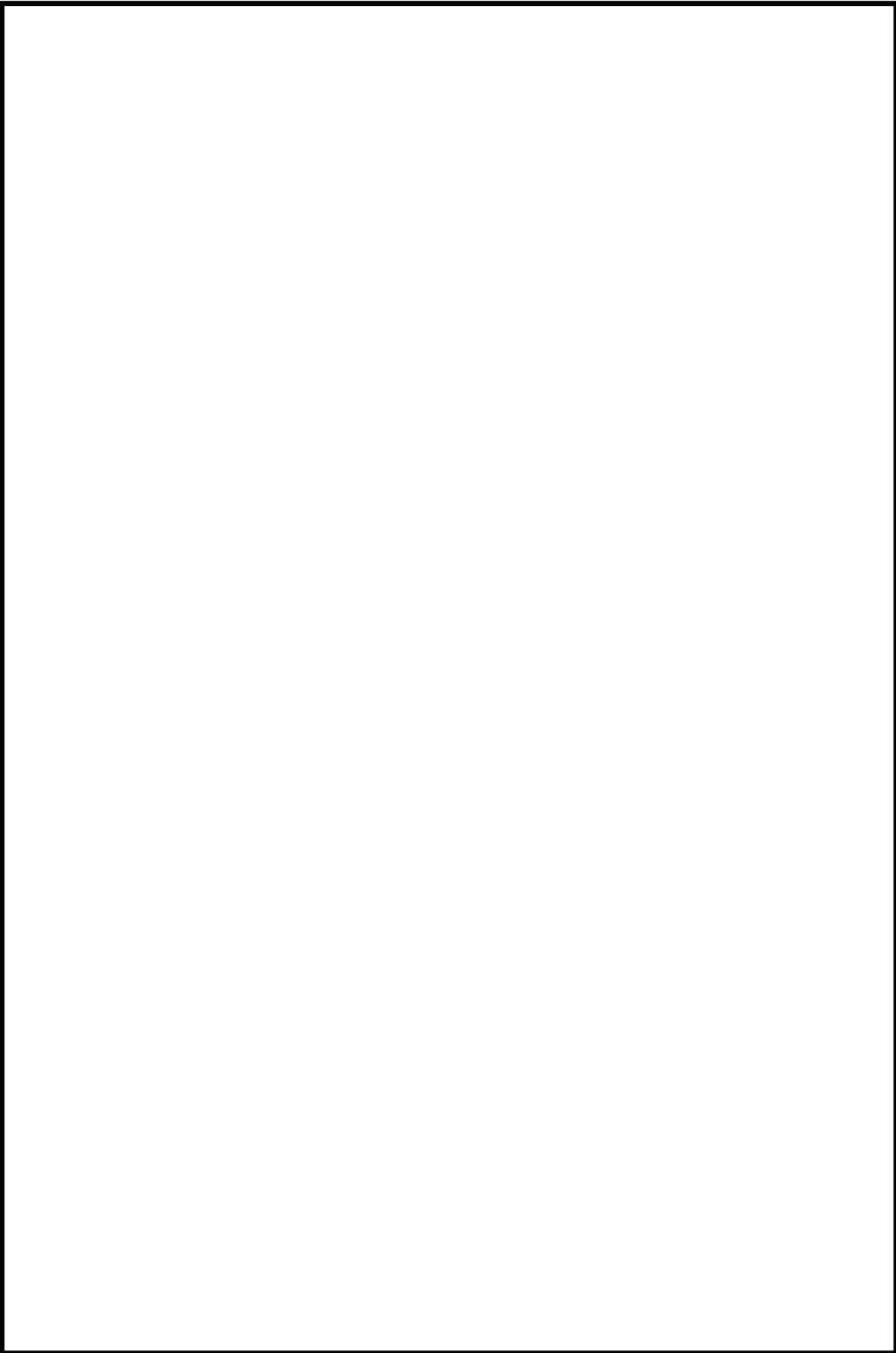
測線	A測線	B測線
調査測線長 (m)	1,420	1,490
解析断面長 (m)	1,150	1,355

- 調査測線
- - 解析断面

第 1.6.2 図 反射法地震探査位置図

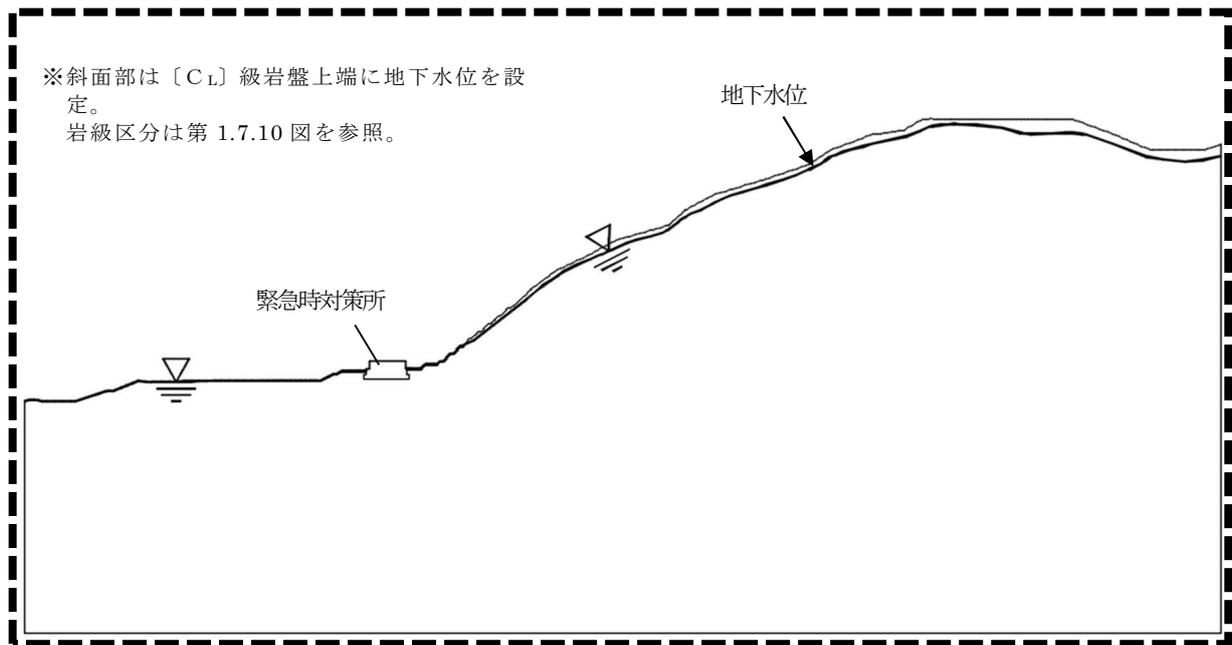


第 1.6.3 図 ボーリング調査位置図

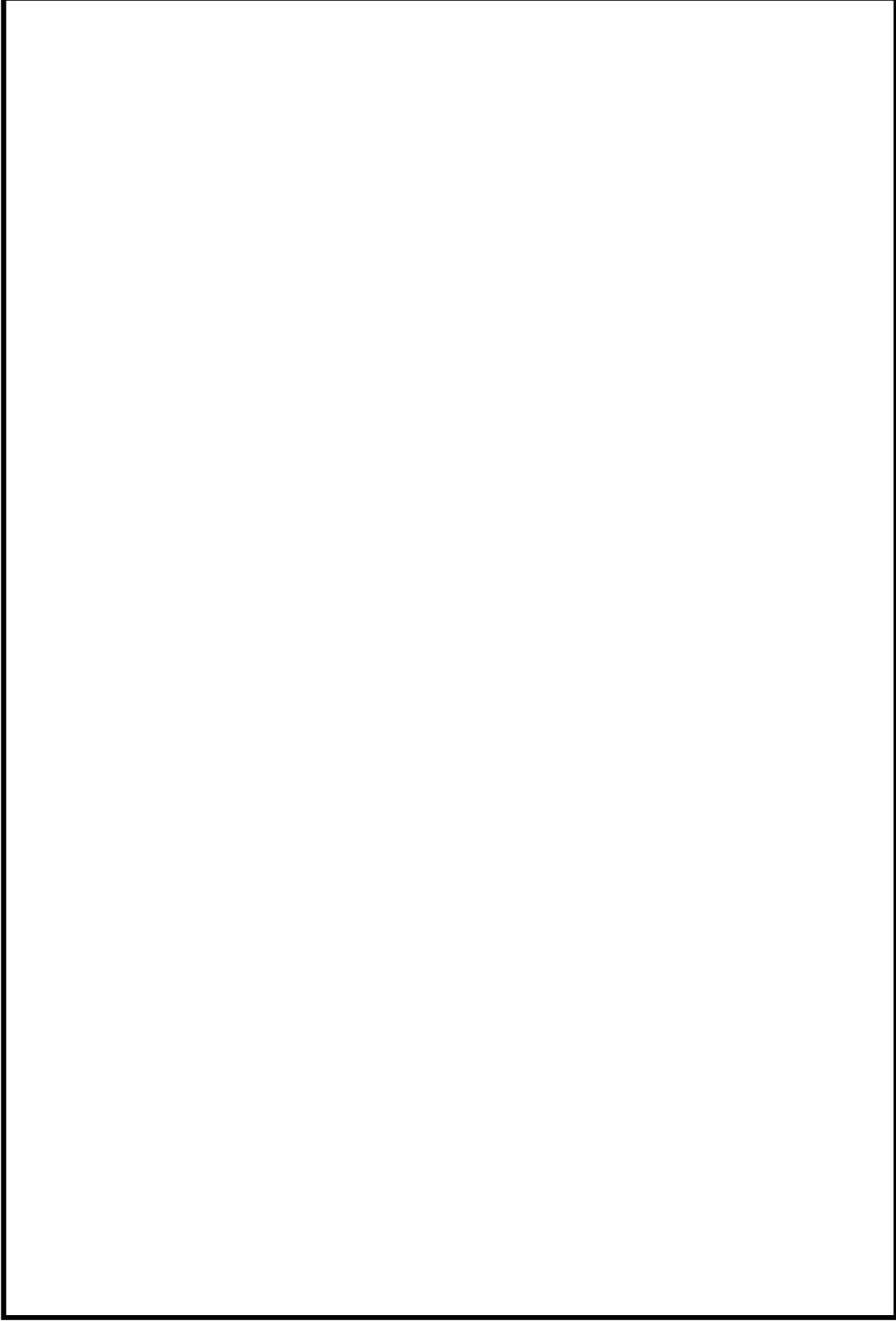


第 1.7.1 図 耐震重要施設及び常設重大事故等対処施設の配置並びに解析断面位置図

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。



第 1.7.23 図 解析用地下水位 (J - J')

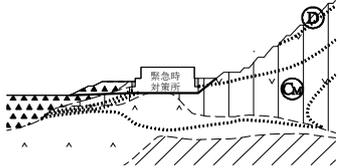


第 1.7.24 図 評価対象斜面及び解析断面位置図

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。



第 3.6.15 表 すべり安全率一覧表（J - J'）

すべり面 番号	すべり面形状	基準地震動	すべり安全率
1		Ss-1(-, +)	<p style="text-align: center;">(13.5)</p> <p style="text-align: center;">[14.83]</p> <p style="text-align: center;">(8.0)</p>
<p>凡例 ——— すべり面 ○ すべり安全率の最小値</p>			
<p>※1 基準地震動の (+, +) は位相反転なし、(-, +) は水平反転、(+, -) は鉛直反転、(-, -) は水平反転かつ鉛直反転を示す。 ※2 すべり安全率の [] 内は発生時刻、() 内は、地盤物性のばらつきを考慮したすべり安全率を示す。 ※3 すべり安全率は最小値を示す基準地震動、発生時刻における値を記載。</p>			

第 3.6.22 表 緊急時対策所の相対変位と傾斜

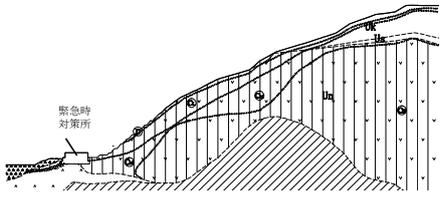
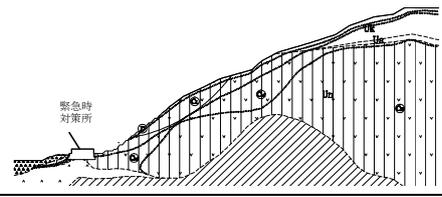
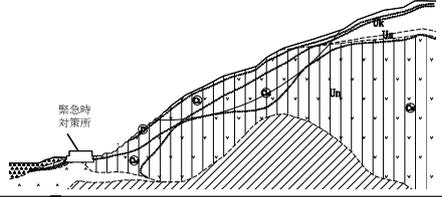
(J - J')

対象建屋	基準地震動	最大相対変位量 $ \delta A_y - \delta B_y $	最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$
緊急時対策所	Ss-7(-, +)	0.14cm (T=7.69秒)	1/21,400 (L=29.95m)

※1 基準地震動の (+, +) は位相反転なし、(-, +) は水平反転、
(+, -) は鉛直反転、(-, -) は水平反転かつ鉛直反転を示す。

※2 最大相対変位量、最大傾斜は最大値を示す基準地震動、発生時刻における
値を記載。

第 3.6.24 表 すべり安全率一覧表 (J - J')

すべり面 番号	すべり面形状	基準地震動	すべり安全率
1		Ss-1(+, +)	$\textcircled{1.7}$ [27.11] (1.5)
2		Ss-1(-, +)	3.9 [34.31]
3		Ss-1(-, -)	5.5 [12.93]

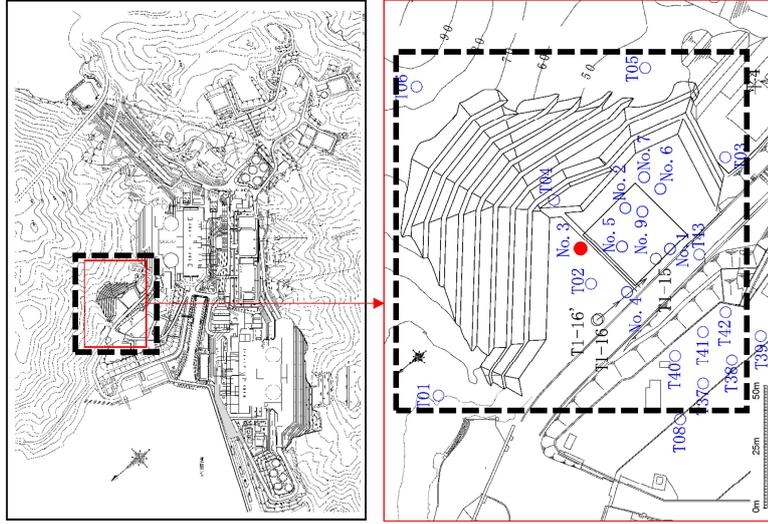
凡例 ——— すべり面 ○ すべり安全率の最小値

※1 基準地震動の (+, +) は位相反転なし、(-, +) は水平反転、(+, -) は鉛直反転、(-, -) は水平反転かつ鉛直反転を示す。

※2 すべり安全率の [] 内は発生時刻、() 内は、地盤物性のばらつきを考慮したすべり安全率を示す。

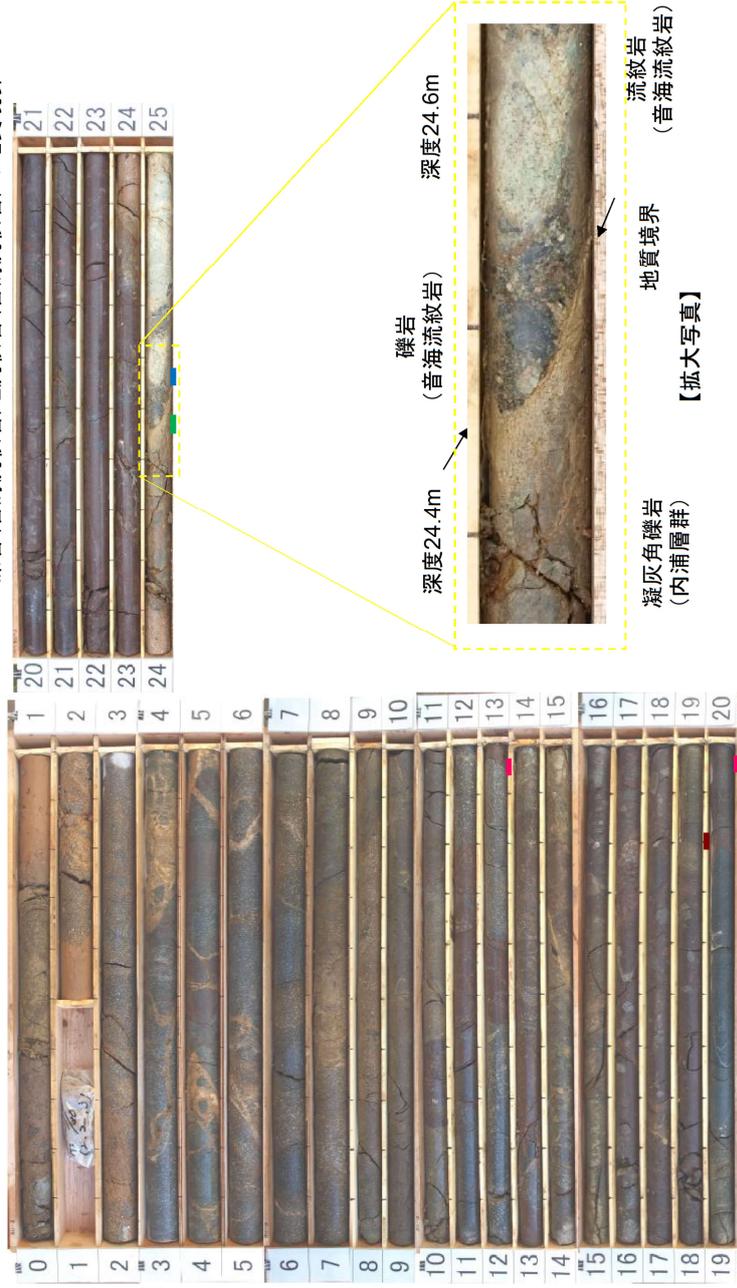
※3 すべり安全率は最小値を示す基準地震動、発生時刻における値を記載。

【ボーリング調査位置】



【No.3孔諸元】

孔口標高: E.L.33.00m 掘進角度: 90° 掘進長: 25.00m

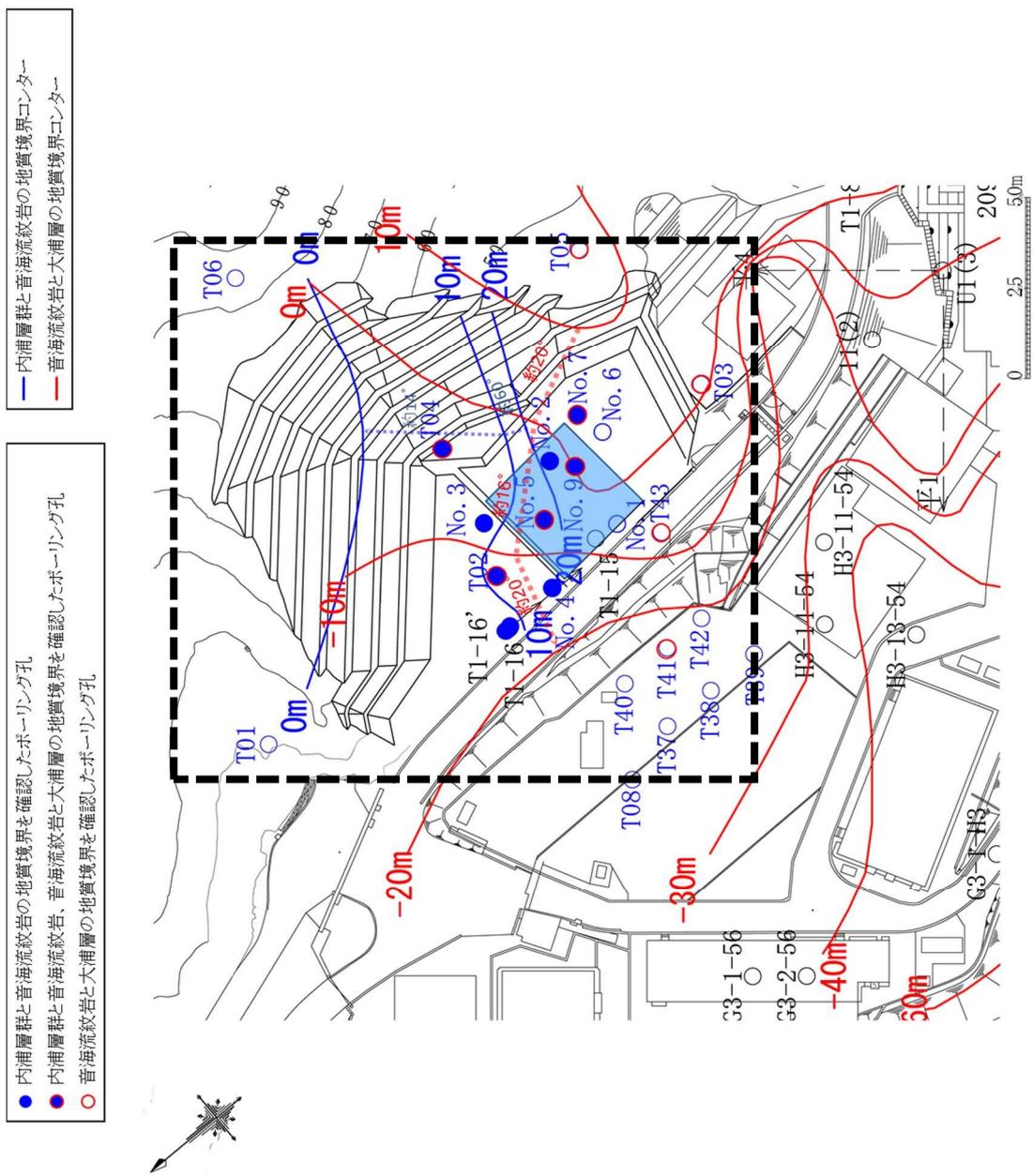


- 安山岩 (内浦層群)と凝灰角礫岩 (内浦層群)の地質境界
- 凝灰角礫岩 (内浦層群)と安山岩 (内浦層群)の地質境界
- 凝灰角礫岩 (内浦層群)と礫岩 (音海流紋岩)の地質境界
- 礫岩 (音海流紋岩)と流紋岩 (音海流紋岩)の地質境界

・ No. 3孔では、基盤岩は内浦層群の安山岩・凝灰角礫岩と音海流紋岩の流紋岩からなり、全長にわたり岩塊全体に風化の影響が認められる。

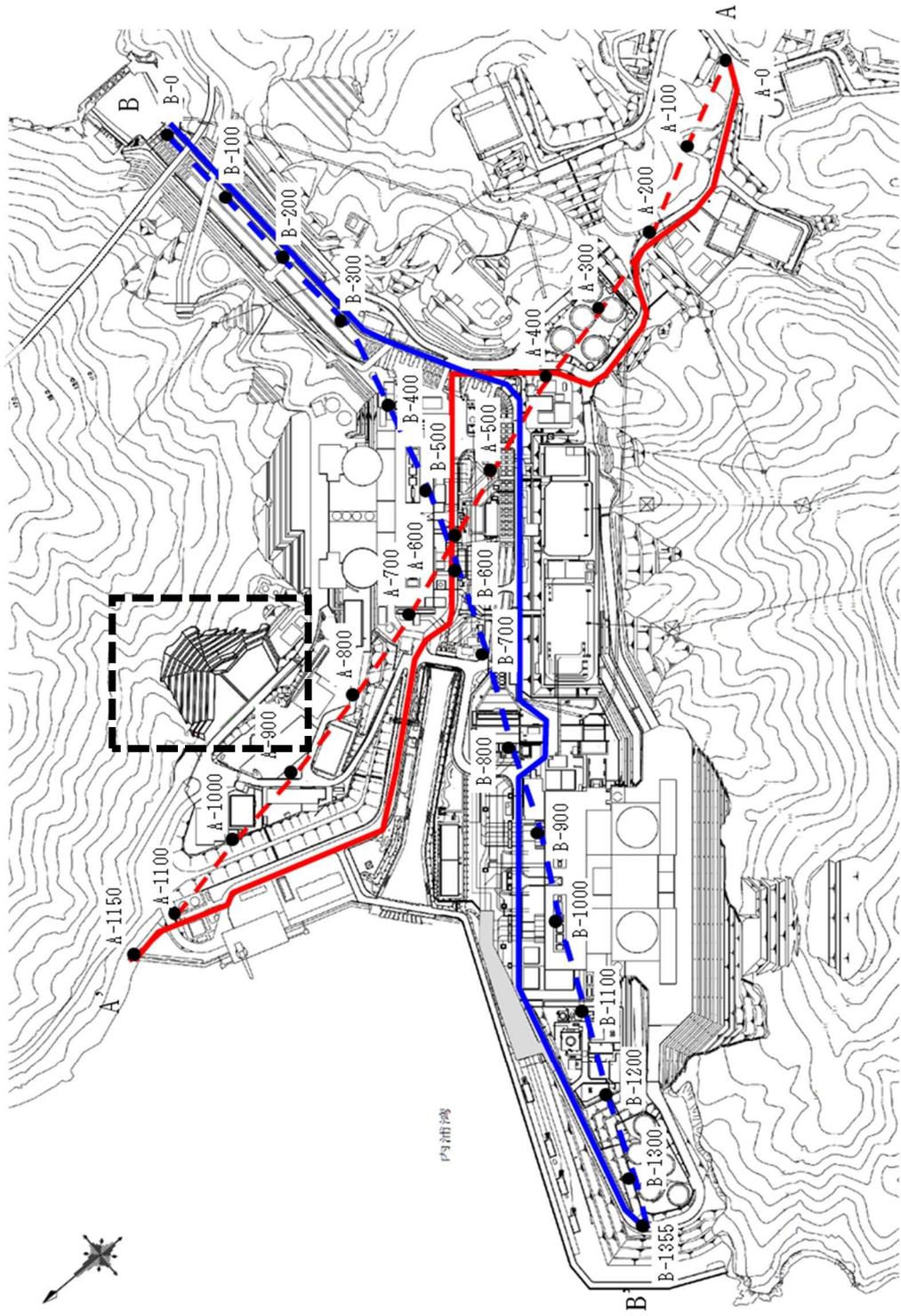
・ コア観察及び必要に応じてCT画像解析を行った結果、破砕部は認められない。なお、凝灰角礫岩 (内浦層群) と礫岩 (音海流紋岩) の地質境界について、詳細観察を行い、不整合面であることを確認した。

第 3.4.39 図 (1) 音海流紋岩と内浦層群の境界部のボーリング調査結果 (No.3 孔)



第 3.4.41 図 内浦層群と音海流紋岩、音海流紋岩と大浦層との地質境界の分布状況

- ・大浦層と音海流紋岩の地質境界には、急斜面が直線的に連続するような断面を示唆する特徴は認められない。
- ・内浦層群と音海流紋岩の地質境界の分布図を作成し、下位の地質境界と大浦層の地質境界は北東方向に向かって約14~60°で傾斜しているが、下位の大浦層と音海流紋岩との地質境界は北西方向に向かって約16~20°で傾斜しており、これらの形状は全く異なっている。

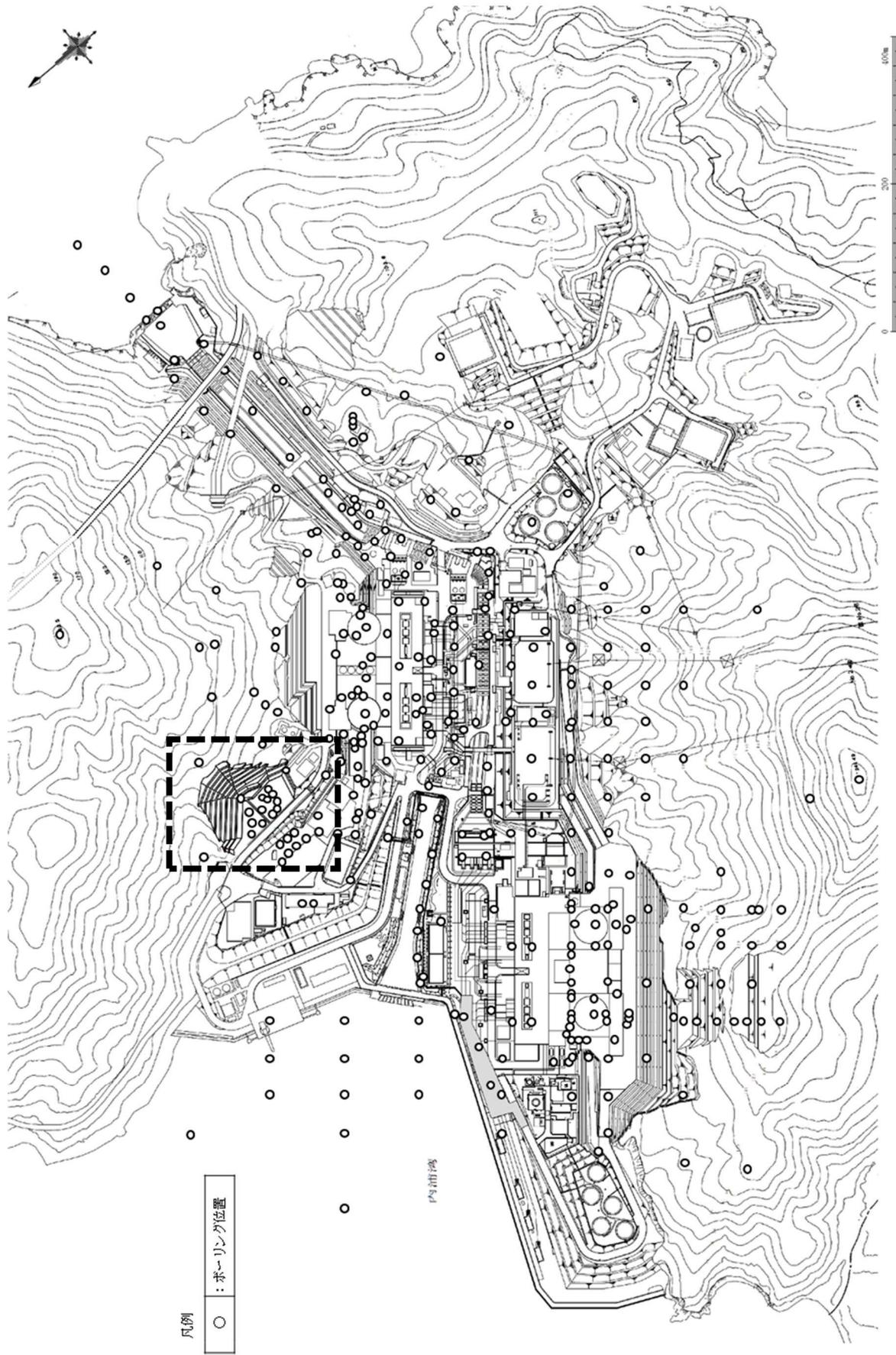


図中の数値は始点からの距離 (m)

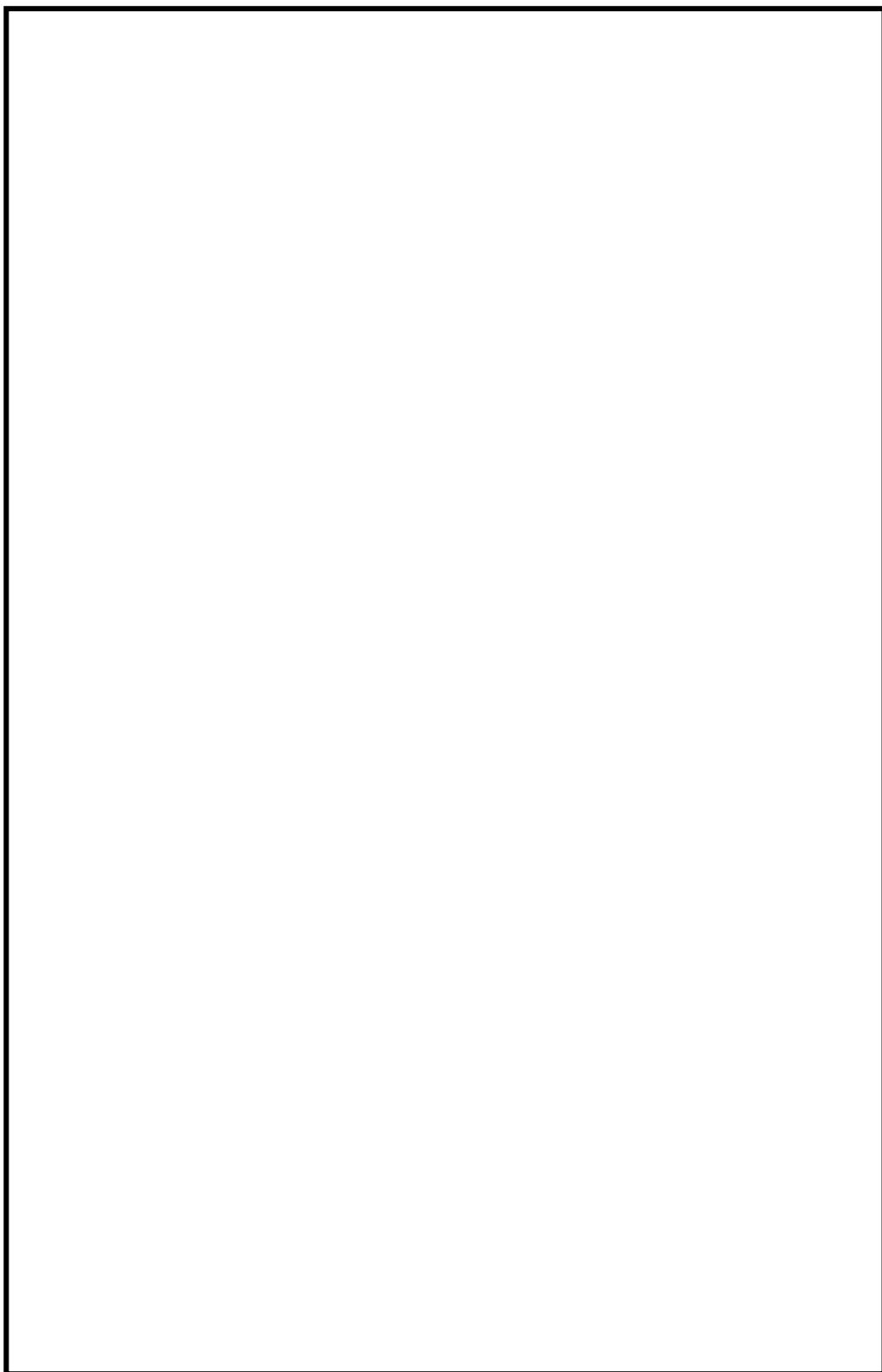
測線	A測線	B測線
調査測線長 (m)	1,420	1,490
解析断面長 (m)	1,150	1,355

- 調査測線
- - 解析断面

第 3.5.1 図(2) 反射法地震探査位置図

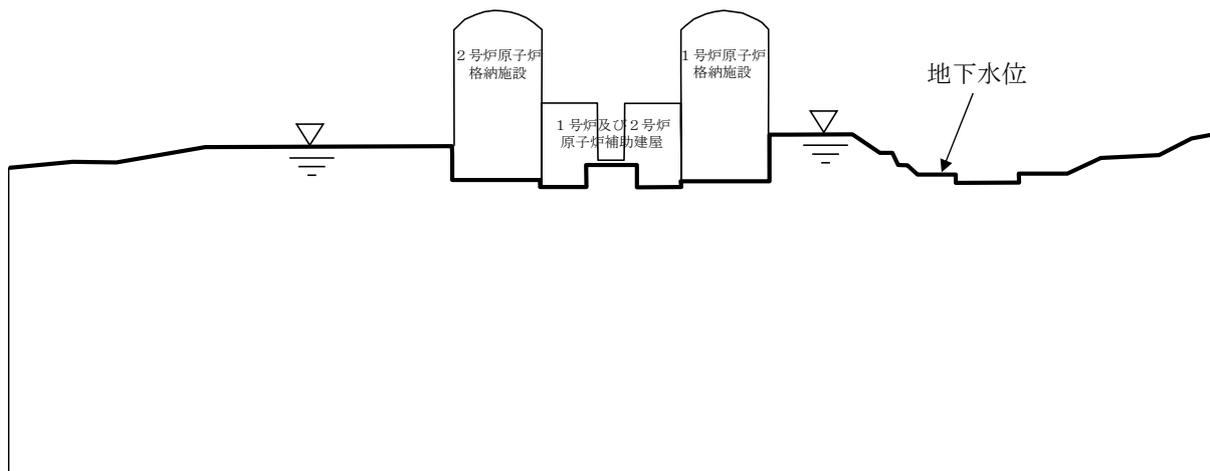


第 3.5.1 図(3) ボーリング調査位置図

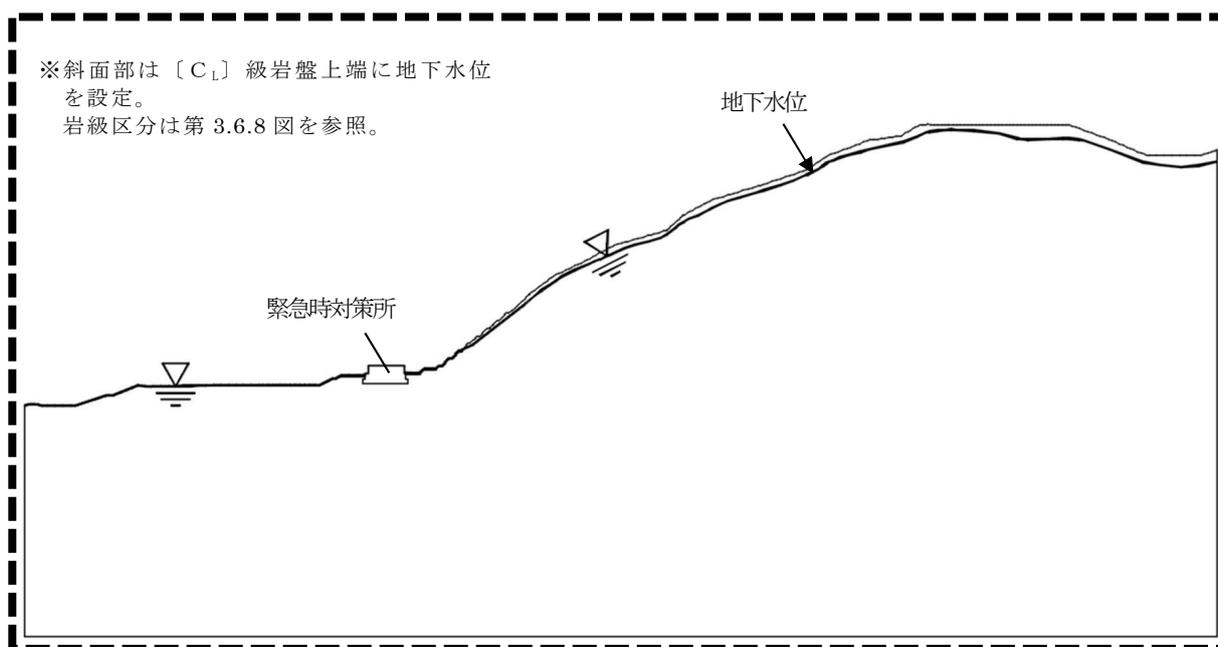


第 3.6.1 図 耐震重要施設及び常設重大事故等対処施設の配置並びに解析断面位置図

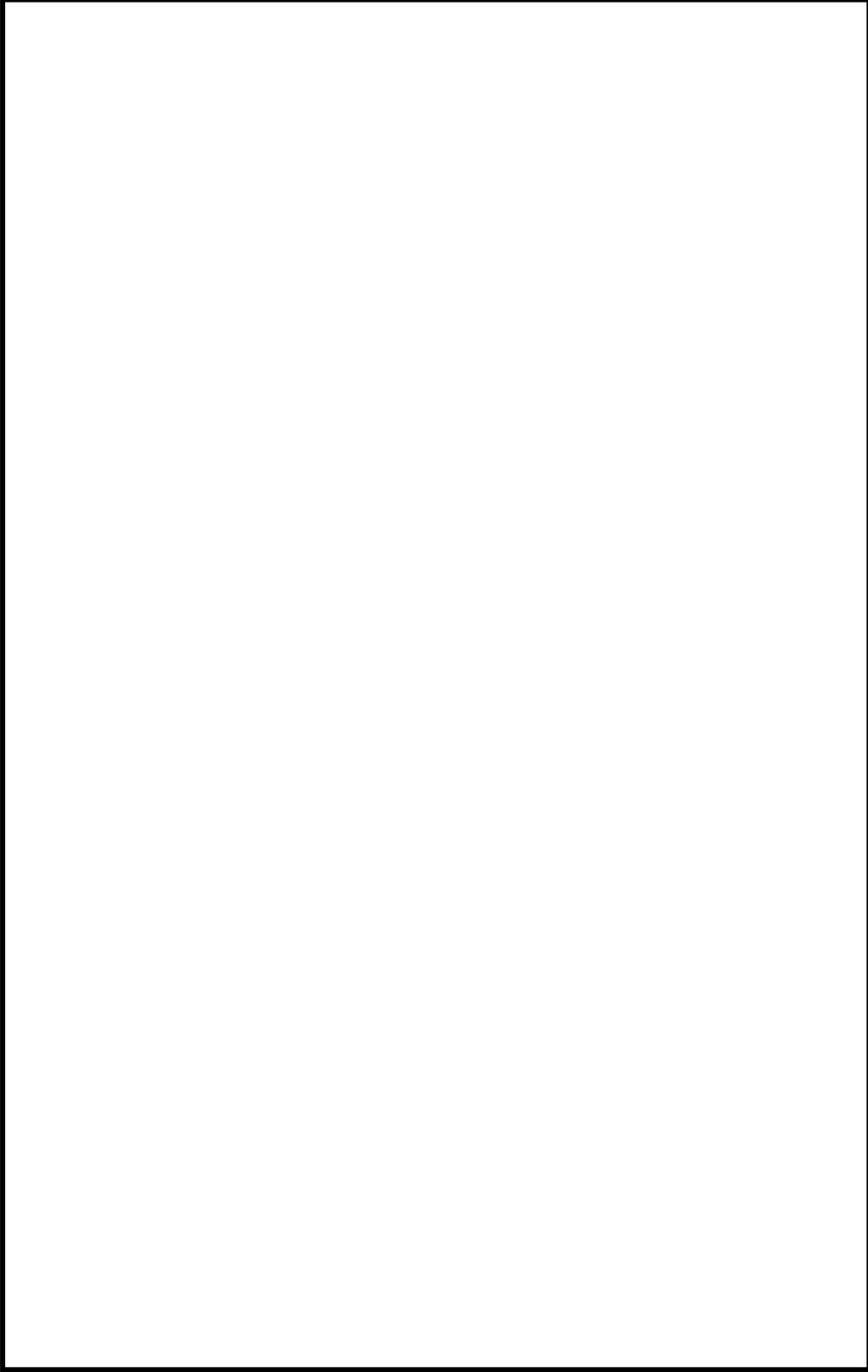
枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。



第 3.6.18 図 解析用地下水位 (C - C')



第 3.6.19 図 解析用地下水位 (J - J')



第 3.6.20 図 評価対象斜面及び解析断面位置図

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。